

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・整備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

本学のキャンパスは旦野原、挾間及び王子の3地区に分かれている。旦野原地区には3学部（教育福祉科学部、経済学部、工学部）、4研究科（教育学研究科、経済学研究科、工学研究科、福祉社会科学研究科）、挾間地区には1学部（医学部）、1研究科（医学系研究科）、王子地区には附属学校園を配置している。

主なキャンパス（旦野原、挾間）の校地面積は約430,000m²、校舎面積は約110,000m²であり、大学設置基準の必要な面積のそれぞれ7.2、2.4倍である。（大学現況表「施設設備等」【基準8】、資料8-1-①-B1）

教育研究組織及び教育課程に対応した施設として、講義室・演習室219室（約14,000m²）、教員研究室449室（約9,000m²）、実験・実習室等395室（約20,000m²）等を設置している。（資料8-1-①-A1）ほぼ全ての講義室・演習室には、スクリーン、液晶プロジェクタ及び冷暖房装置が備えられている。講義室の利用率は、約70%と高い値を示している。（資料8-1-①-A1）運動場・体育館・プール等の体育施設についても、キャンパスごとに授業及び課外活動を行う上で必要な施設・設備を整備している。（大学現況表「施設設備等」【基準8】、資料8-1-①-B2）その他、大学現況表「施設・設備」に掲げた地域共同研究センターをはじめとする多くの附属施設を有している。

本学は、教育福祉科学部、大学院独立研究科である福祉社会科学研究科などで福祉に関する分野に積極的に取り組んでいることから、設備・施設のバリアフリー化を積極的に進め、低層階棟を含むほとんどの講義棟に車椅子対応のスロープ、手すり、トイレ、エレベーターを設置している。（資料8-1-①-A2, B3）また、旦野原キャンパスの最寄り駅（JR大分大学前駅）から車椅子対応のスロープを設けた他、学生寮の改修にあたり身障者用寮室2室を整備した。

資料 8-1-①-A1 教育・研究施設の整備状況

区分	講義室			実験実習室等							
				演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設	
	部屋数	面積 (m ²)	利用率 (%)	部屋数	面積 (m ²)	部屋数	面積 (m ²)	部屋数	面積 (m ²)	部屋数	面積 (m ²)
教育福祉科学部	25	2,252	67	65	2,194	34	1,838	3	209	0	0
経済学部	7	1,162	69	12	467	2	154	1	41	0	0
医学部	12	1,666	44	34	765	191	8,753	3	216	1	168
工学部	13	1,386	70	25	850	150	7,882	6	490	0	0
教養教育	21	2,679	67	5	159	18	1,138	0	0	1	240
計・平均	78	9,145	—	141	4,435	395	19,765	13	956	2	408

※ 講義室利用率(%)は、(1週間のカリキュラム上の講義数(コマ数) ÷ (週(5日) × 時限(5時限))) × 100によって算出した。(附属学校園を除く)

資料 8-1-①-A2 身体障がい者等を支援する施設・設備

キャンパス	スロープ (箇所)	自動ドア (箇所)	トイレ (箇所)	障がい者用 駐車場(台)	エレベーター (基)
旦野原キャンパス	46	51	35	10	25
挾間キャンパス	12	7	13	13	11
王子キャンパス	14	13	4	1	3
計	72	71	52	24	39

【別添資料】

資料 8-1-①-B1 大学概要 2008 資料編

<http://www.oita-u.ac.jp/webpamphlet/Gaiyo/gaiyo.html#1>

資料 8-1-①-B2 大学概要

<http://www.oita-u.ac.jp/menu/m03gaiyo.html>

資料 8-1-①-B3 ユニバーサルデザイン推進計画 (抜粋)

【分析結果とその根拠理由】

本学の校地面積，校舎面積は大学設置基準を上回り，教育研究活動及び課外活動を行うに十分な設備・施設を有しており，有効に活用されている。また，バリアフリー化へも積極的に取り組んでいる。

以上のことから，本観点を十分に満たしていると判断する。

観点 8-1-②： 大学において編成された教育課程の遂行に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

本学では、学術情報拠点規程（資料 8-1-②-B1）を定めて大分大学キャンパスネットワークを構築している。ネットワークには統合認証システムを導入し、一つの ID・パスワードで各種サーバの利用ができるよう、利用者 ID・パスワードを一元的に管理している。学内ネットワークでは基幹 1 Gbps、支線 100Mbps の高速通信を用い、学術情報ネットワーク（SINET）や地域ネットワーク（豊の国ハイパーネットワーク）を通じて、広域ネットワークへと接続されている。（資料 8-1-②-B2～B4）学内に対しては、情報機器・情報ネットワークの利用状況の調査を踏まえて、ネットワークの高速化・高度化・利用範囲拡大、無線 LAN のアクセスポイント増設及び統合認証の実施など、ネットワークの利用環境と最新の情報教育機器の整備を行った。ネットワークには、全学統一の新教務情報システム、講義記録支援システム（電子ホワイトボード、オンディマンド授業配信）、授業評価支援システム、遠隔講義システム、e-learning 管理システム（LMS; Learning Management System; WebClass）を搭載し、学生の学外・教室外での学習環境を整備している。（資料 8-1-②-B5～B8）

情報セキュリティ対策としてファイアウォール（ハードウェアとソフトウェア）を設置し、内外からのネットワークアクセスをコントロールするとともに、IDS（Intrusion Detection System）によってインターネットからの攻撃を監視し、送受されるすべてのメールについてウイルス、spam メールをチェックしている。

上記の ICT 環境を利用し、オンライン学習の便宜を図る（資料 8-1-②-A1）と共に WebClass 上には情報倫理教材を用意し、利用者のネットワーク利用に対する倫理意識の向上に努めている。WebClass には 83 のコースが登録され、充実しつつある。また、情報教育用として約 400 台の端末が利用可能であり、それらは累計 181 科目の授業に活用している。（資料 8-1-②-A2）

資料 8-1-②-A1 オンライン学習システム

名称	概要	登録数
WebClass	オンライン上で授業を構築するシステム	教員+学生 10,292 人/83 コース
ALC Net Academy	オンライン英語学習システム	教員 303 人、学生 9,989 人
遠隔講義システム	授業のリアルタイム通信	学内 2 科目、他学 2 科目（実績）

資料 8-1-②-A2 主な教育用端末の数と教育への利用

学部等	室	台数	授業利用 科目数	特徴
情報基盤センター	A	80	36	一斉授業支援システム, 開発環境 マルチメディアヘッドセット
	B	60	22	一斉授業支援システム, 開発環境 化学構造式作画ソフト
	C	3	0	教職員の研究・授業支援システム。
教養教育・LL 教室	D	74	29	ヘッドセット
教育福祉科学部	E	32	25	一斉授業支援システム, 開発環境 マルチメディアヘッドセット
	F	20	6	開発環境
経済学部	G	50	41	統計解析パッケージ
医学部	H	50	22	
	I	36	0	統計解析パッケージ
	J	105	-	臨床大講義室
	K	25	-	チュートリアル室

「-」は不明。(王子キャンパスを除く)

【別添資料】

- 資料 8-1-②-B1 学術情報拠点規程
<http://www.lib.oita-u.ac.jp/kyoten/kitei/gal2.pdf>
- 資料 8-1-②-B2 キャンパスネットワーク
- 資料 8-1-②-B3 キャンパスネットワーク構成概略図
- 資料 8-1-②-B4 情報ネットワークの整備状況
<http://www.cc.oita-u.ac.jp/lan-info/wireless.html>
- 資料 8-1-②-B5 インターネット情報教育システム
- 資料 8-1-②-B6 情報教育システム
- 資料 8-1-②-B7 スマートボード使用説明会資料
- 資料 8-1-②-B8 新教務情報システム画面
<https://www1.kyomu.oita-u.ac.jp/oita-u/campus>

【分析結果とその根拠理由】

学内規程に基づき、情報基盤センターを中心として、授業内外で学生が利用可能な情報コンセント、無線LAN、パソコンが十分確保され、講義記録支援システムを始めとする各種のシステムが整備され、各種情報の伝達手段に活用されている。また、情報倫理や情報セキュリティについても十分な対策が執られている。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

観点 8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点に係る状況】

本学では、学長のリーダーシップの下に全学的な施設マネジメントを実施するため、施設の整備管理に関する目標と対策を策定し（資料 8-1-③-B1）、「施設・設備等維持管理計画」、「ユニバーサルデザイン推進計画」、「耐震改修計画及び有効活用スペースの推進計画」を策定・実施している。（資料 8-1-①-B3, 資料 8-1-③-B2～B4）また、施設等の貸与等にあたっては、その目的や対象によって貸与制限や貸付料金の変更を行っている。

各施設の使用・手続きに関する情報は「学生生活案内」、「図書館案内」などの配付資料をはじめ、学内ホームページ上に掲載することで大学の構成員に周知している。（資料 8-1-③-B5～B7）

学生に対しては、入学時に ICT 利用のための ID を配付し、ガイダンスにおいて説明をしている。教職員に対しては、ICT 機器の利用方法や情報教育による支援手段について、e-learning や WebClass 講習会を開催して周知している。（資料 8-1-③-A1, B8, B9）

資料 8-1-③-A1 e-learning・WebClass 講習会等実施状況（平成 20 年度）

事業名	実施日	教員参加者数
FD や e ラーニングの他大学の動向		
・先進的 e ラーニングに関する研究会	H20. 11. 14	16 名
・FD と e ラーニングに関する講演会	H21. 1. 30	25 名
WebClass 利用者講習会		
・旦野原キャンパス	H20. 4. 22	5 名
・看護学科	H20. 5. 27	17 名

【別添資料】

- 資料 8-1-①-B3 ユニバーサルデザイン推進計画（抜粋）
 資料 8-1-③-B1 施設マネジメント（表紙・目次）
 資料 8-1-③-B2 耐震改修計画
 資料 8-1-③-B3 施設・設備等維持管理計画（表紙・目次）
 資料 8-1-③-B4 有効活用スペースの推進計画（抜粋）
 資料 8-1-③-B5 平成 20 年度学生生活案内「5. 福利厚生～10. 学術情報拠点」
 資料 8-1-③-B6 図書館案内
 資料 8-1-③-B7 図書館・センター等
<http://www.oita-u.ac.jp/menu/m05center.html>
 資料 8-1-③-B8 学術情報拠点利用案内
<http://www.lib.oita-u.ac.jp/kyoten/guide.html>
<http://www.cc.oita-u.ac.jp/riyouannai.pdf>
 資料 8-1-③-B9 高等教育開発センターホームページ
<http://www.he.oita-u.ac.jp/ogc/index.html>

【分析結果とその根拠理由】

大学が所有する既存施設の有効活用を行うため、全学的な施設マネジメントを策定し、運用する体制が整備されている。また、各施設・設備の利用・手続きに関する情報は大学構成員に冊子等で配布されるほか、学内ホームページ上でも公表されている。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

観点 8-2-①： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

本学では、学術情報拠点規程に基づき、図書館（旦野原地区）と医学図書館（挾間地区）において教育研究に必要な図書・学術雑誌等の系統的な収集、整理、保存及び運用を行っている。（資料 8-2-①-B1，大学現況表「施設・設備等【基準 8】」）

図書館における蔵書数は 75 万点、座席数は図書館 466 席、医学図書館 210 席である。（大学現況表「施設・設備等【基準 8】」，8-2-①-B1）蔵書は資料 8-2-①-A1 に示す構成で、キャンパスの特性を反映しているものの、バランスが取れている。なお、図書は図書分類法に従い、雑誌は五十音別またはアルファベット順に配架している。また、オンライン検索システムを導入するとともに、大分県立図書館等と連携し相互検索を可能としている。更に、新入生や大学での学習をスムーズに行えるよう学問への導入用書籍を集めた「まなビギナーズ・コーナー」を設置している。

本学で利用可能な電子ジャーナルパッケージと年間ダウンロード数は資料 8-2-①-A2 のとおりである。電子ジャーナルの年間ダウンロード数は前年から 15%程度増加している。

また、DVD、LD、ビデオテープ等の視聴覚資料は、図書館 1,687 点、医学図書館 967 点であり、キャンパスの特性を反映した内容の資料となっている。

平成 20 年度の図書館及び医学図書館としての図書資料費は 7,260 万円であり、学生用図書費を増額（対前年度 230 万円の増）して、教育図書の充実に努めている。学生用図書の選定に当たっては、選書ツアーやリクエストボックスで利用者の希望を取り入れている。

閲覧室以外の利用者スペースとして、図書館では、グループ演習室、視聴覚室、研究者閲覧室、留学生閲覧室を、医学図書館にはグループ学習室、ビデオ室、視聴覚室を設けている。

図書館・医学図書館とも老朽化、書架の狭隘化が進行している。狭隘化の対策として、重複資料の整理を進め、利用されなくなった資料の廃棄等を行って有効スペースの確保に努めている。

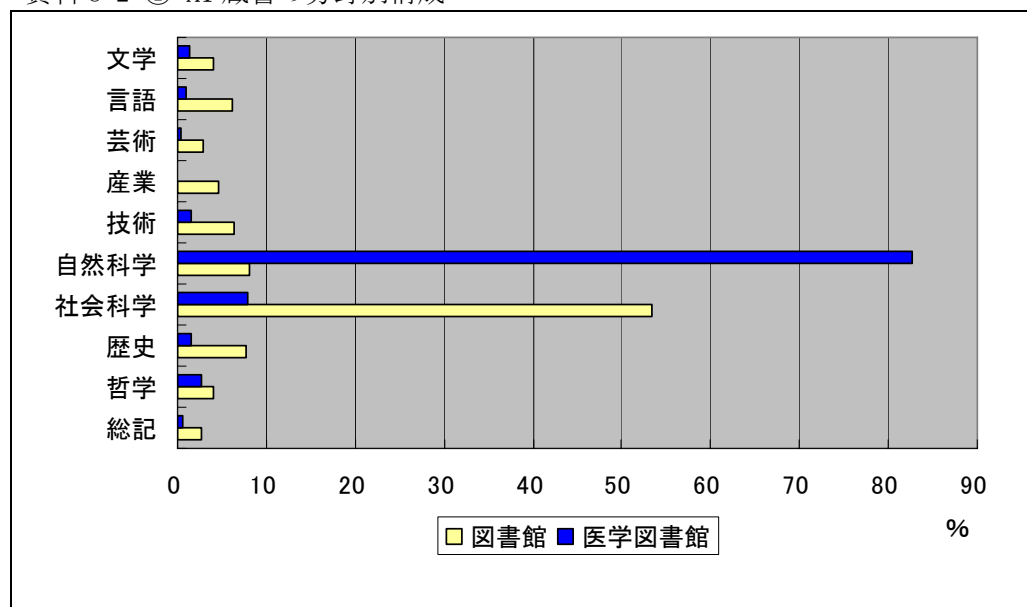
また、学生からの閲覧座席数増加の希望を踏まえ、学長裁量経費により、平成 20 年度に図書館の閲覧机及び椅子の増設・入替えを行い、12 席分を新たに確保した。（資料 8-2-①-B1，大学現況表「施設・設備等【基準 8】」）

図書館・医学図書館とも、年末年始、夏季休暇一斉取得日を除き年間を通して、本館は 22 時（土日祝日は 19 時）、医学分館は 20 時（土日祝日は 17 時）まで開館している。なお、医学図書館では本学の構成員に限り、無人入退館システムにより 24 時間の利用が可能である。（資料 8-2-①-B1, B2）

平成 20 年度の年間入館者数等は資料 8-2-①-A3 に示すとおり、地理的な制約にもかかわらず一般利用者数の入館や貸し出しが多い。利用規程については、学生生活案内やホームページにより周知している。（資料 8-2-①-B1）

利用者の満足度については、隔年毎に利用者アンケートを実施し、利用者の満足度等の調査を行っている。平成 19 年度のアンケート結果では、「満足」～「普通」が 63%であり、「やや不満」～「不満」の 9%を大きく上回っている。（資料 8-2-①-B3）

資料 8-2-①-A1 蔵書の分野別構成



資料 8-2-①-A2 電子ジャーナルダウンロード件数 (単位：件)

ジャーナル名	収録タイトル	タイトル数	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
Springer	全分野	1,229	4,533	4,689	5,213	5,862	7,713
Wiley	全分野	533	4,904	5,527	6,680	8,508	12,383
Elsevier	全分野	1,959	65,820	69,641	65,253	68,849	77,180
IEEE CSLSP	コンピュータ系	26	1,142	2,093	2,621	1,168	250
ACS	化学系	34	4,805	6,436	9,964	12,645	9,819
Nature	生物医学系	9	4,164	4,578	2,474	882	2,132
Blackwell	全分野	758	5,582	4,818	6,819	8,067	12,377
Oxford	全分野	166	契約なし	契約なし	3,529	3,319	4,871
合計		4,714	90,950	97,782	102,553	109,300	126,725

資料 8-2-①-A3 平成 20 年度 図書館活動の状況

	本館	医学分館	合計
入館者数 (人)	343,366	108,945	452,311
内一般利用者数 (人)	11,947	1,298	13,245
貸し出し人数 (人)	22,087	7,337	29,424
貸し出し数 (冊)	50,504	15,187	65,691
内一般利用者数 (冊)	6,745	762	7,507

【別添資料】

- 資料 8-2-①-B1 図書館概要
http://www.lib.oita-u.ac.jp/lib_i/gaiyo/index.html
- 資料 8-2-①-B2 図書館利用案内
http://www.lib.oita-u.ac.jp/lib_s/guide/lib/index.html
http://www.lib.oita-u.ac.jp/lib_s/guide/med/index.html
- 資料 8-2-①-B3 医学図書館利用者アンケート集計結果

【分析結果とその根拠理由】

学術情報拠点規程に基づき、学部の種類、規模等に応じた図書・学術雑誌等の分野別収集・整理が行われている。また、資料整備面の利用者の満足度調査の結果から見ても有効に活用されている。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

なお、老朽化・狭隘化の対策として図書館の改修・スペースの拡充に取り組む必要がある。

(2) 優れた点および改善を要する点**【優れた点】**

- 情報基盤センターは教育内容や教育方法、学生のニーズに配慮しながら ICT 環境の整備を進めており、本学の教育活動に見合った施設・設備・情報ネットワーク・学術資料管理を適切に運営している。(観点 8-1-②)
- 電子ホワイトボード、講義記録支援、授業評価支援、遠隔講義システムの導入など、学生の学外・教室外での学習環境を整備している。(観点 8-1-②)
- 図書館・医学図書館は年末年始等を除き年間を通して利用可能で、年間約 45 万人もの入館者に活用されている。(観点 8-2-①)
- 図書館に「まなビギナーズ・コーナー」を設置し、新入生や大学での学習をスムーズに行えるよう配慮している。(観点 8-2-①)

【改善を要する点】

- 図書館の老朽化・狭隘化の対策として、図書館の改修・スペースの拡充に取り組む必要がある。(観点 8-2-①)

(3) 基準 8 の自己評価の概要

- 本学における教育研究推進のための施設・設備は 3 地区（旦野原，挾間，王子）に分かれており、校地面積は 428,714m²、校舎面積は 112,418m²であり、大学設置基準を満足している。教育研究活動及び課外活動を行うに十分な設備・施設を有しており、バリアフリー化への取組も積極的に行っている。(観点 8-1-①)
- 教育課程の遂行に必要な ICT 環境については、学内規定に基づき、情報基盤センターを中心として教育内容や方法、学生のニーズに配慮して整備している。授業内外で学生が利用可能な情報コンセント、無線 LAN、パソコンを十分確保し、各種の情報伝達に活用している。また、情報セキュリティについても十分な対策を採っている。(観点 8-1-②)
- 施設・設備の運用に関する方針については、学内規則等で明確に規定するとともに、学長のリーダーシップの下に全学的な施設マネジメントを実施できる体制を整備している。各施設・設備の利用・手続きに関する情報は大学構成員に配布されるほか、大学や各施設のホームページ上でも公表し、周知を図っている。(観点 8-1-③)
- 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料については、学内規定に基づき、学部の種類、規模等に応じた図書・学術雑誌等の分野別収集・整理を行っている。図書館・医学図書館とも年間を通して利用可能であり、利用規程も広く周知され、両図書館を併せて年間約 45 万人もの入館者に活用されている。(観点 8-2-①)